



2015年第2四半期決算説明資料

2015年1月1日 ~ 2015年6月30日

竹本容器株式会社
(東証2部 4248)

2015年8月10日

 TAKEMOTO

1.2015年第2四半期トピックス

2.2015年第2四半期業績概要

3.事業計画の進捗について

【参考資料】

4.当社事業の概要について

①金型（新製品）開発状況

当社グループでは、中国子会社で手掛けている金型製作工程の一部内製化の施策を進行させるとともに、金型設計標準化ならびに金型開発体制の拡大強化を行うことで、2017年には年間500型（スタンダードボトルとカスタムボトルの合算）の金型製作の実現を目指しています。

今年度においては、グループ全体で230型の金型製作を計画していますが第2四半期までの進捗状況は下記のとおりです。

	完成金型数	製作中	合計
日本	54型 (10型)	33型 (10型)	87型 (20型)
中国	50型 (21型)	101型 (20型)	151型 (41型)
合計	104型 (31型)	134型 (30型)	238型 (61型)

※表の（ ）は内数でカスタムボトル用金型

2015年6月末時点での自社金型数は**2,777型**に。

②新ジェイ・トム工場の稼働開始

富山県富山市内において押出しチューブ専門工場として稼働していたジェイ・トム事業所（工場）を、今後の生産拡大に伴うスペース確保のため富山県中新川郡立山町に新工場を建設・移転し、2015年5月より本稼働となりました。

新工場全景



生産品



このほか、成形工程と印刷・二次加工工程の連携強化のため、結城事業所の第5期工事に2015年12月期中に着手する予定です。

③開発提案型ボトルパッケージングメーカーを目指した提案活動の推進

必要なボトルを、必要なときに、必要なだけお届けする。

これがスタンダード・ボトル（既製品容器）メーカーの使命です。

スタンダード・ボトルのパイオニアとして

時代を創ってきたTAKEMOTOでは、

お客様の「品質・機能・個性化」の

カスタマイズニーズにお応えする

スタンダード・ボトルを通じて、

カスタムボトル・イノベーションをおこし、

開発提案型ボトルパッケージングメーカーとして進化し続けます。



1.2015年第2四半期トピックス

2.2015年第2四半期業績概要

3.事業計画の進捗について

【参考資料】

4.当社事業の概要について

2.2015年第2四半期業績概要



2015年第2四半期連結決算ハイライト

	2015年第2四半期		2014年12月期 (通期)	
	百万円	%	百万円	%
売上高	5,966	100.0	11,062	100.0
営業利益	634	10.6	877	7.9
営業外損益	12	0.2	2	0.1
経常利益	646	10.8	879	8.0
特別損益	▲7	0.1	9	0.1
税金等調整前 当期純利益	639	10.7	889	8.0
当期純利益	435	7.3	581	5.3
減価償却費	303		723	
設備投資額	838		1,360	
(うち 金型)	174		438	
ROE	-		13.1%	

売上高

日本国内は新規受注が引き続き順調でほぼ計画通り推移。中国は春節後から受注が好調。受注残も多く抱え、人民元ベースでも計画クリア。 百万円

地域別セグメント	2015/2Q	2014/12
日本	4,368	8,568
中国	1,510	2,312
その他	87	180

営業利益

樹脂原材料の価格低減は見込み通り日本でも2月から寄与。中国での生産効率向上効果あり、利益率up 百万円

地域別セグメント	2015/2Q	2014/12
日本	410	630
中国	202	214
その他	21	32

四半期純利益

営業利益率upにより純利益率も上昇

※当社は今期より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同期との比較は行っていません。

【参考】平均為替レート

	2015年 第2四半期	2014年12月期
対人民元	19.33 円	17.19 円
対米ドル	120.33 円	105.79 円

区分別販売実績

販売先の主要事業内容ごとの販売実績

区分	2015年第2四半期		2014年12月期（通期）	
	金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	百万円	%
化粧・美容	3,471	58.2	6,472	58.5
日用・雑貨	266	4.5	681	6.2
食品・健康食品	488	8.2	972	8.8
化学・医薬	286	4.8	502	4.5
卸、その他	1,452	24.4	2,433	22.0
合 計	5,966	100.0	11,062	100.0

※ 上記区分は販売先の主要事業内容により分類したものであり、
販売先における実際の用途と上記区分名称は異なる場合があります。

区分別販売実績

製商品の内訳ごとの販売実績

区分	2015年第2四半期		2014年12月期（通期）	
	金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	百万円	%
自社製品 （スタンダードボトル）	4,418	74.1	8,019	72.5
顧客金型製品 （カスタムボトル）	670	11.2	1,213	11.0
他社製品	679	11.4	1,527	13.8
材料その他	197	3.3	300	2.7
合計	5,966	100.0	11,062	100.0

※上記区分は以下により分類しています

自社製品：当社所有の金型を用いて生産した製品（スタンダードボトル）

顧客金型製品：顧客が金型費用を負担している製品（カスタムボトル）

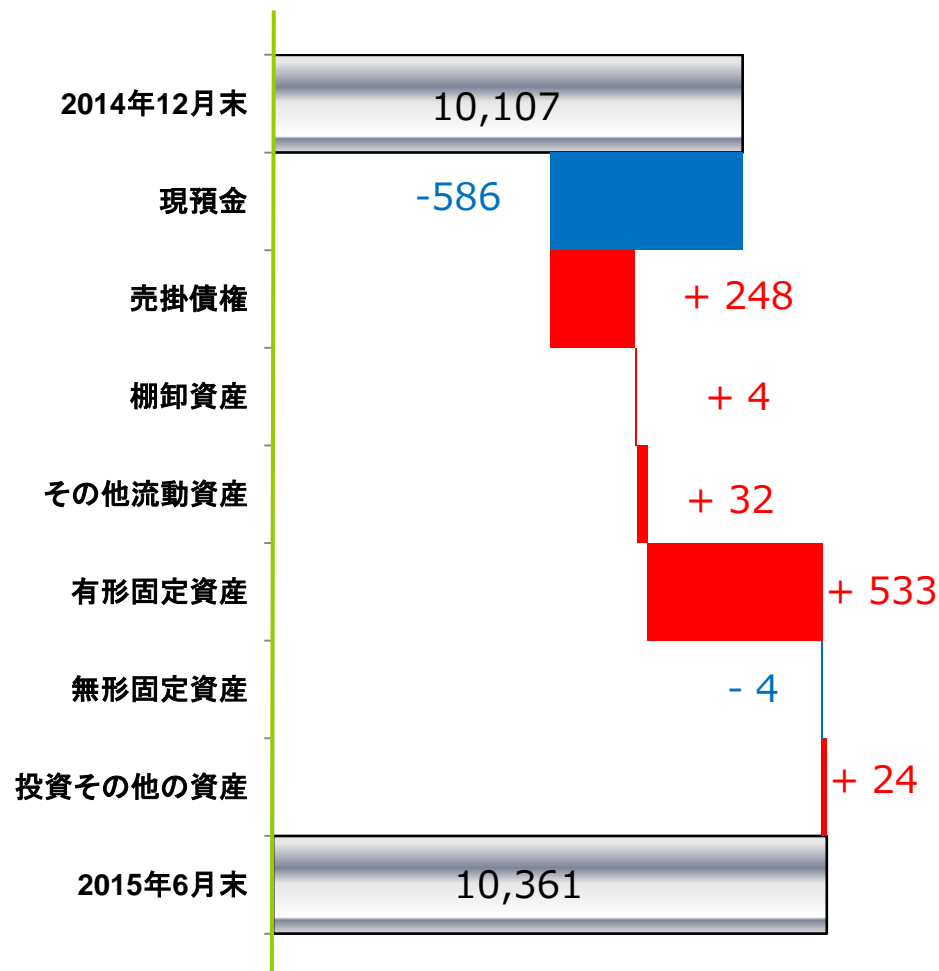
他社製品：顧客の要望等により他社から仕入れた品物

材料その他：協力メーカーへの原材料を販売した物等

2.2015年第2四半期業績概要

2015年第2四半期 連結貸借対照表 資産の部

百万円



■流動資産 ▲ 300

現金 ▲ 586

売掛債権 + 248

■固定資産 + 554

有形固定資産 + 533

建物及び構築物 + 470

機械装置及び運搬具 + 270

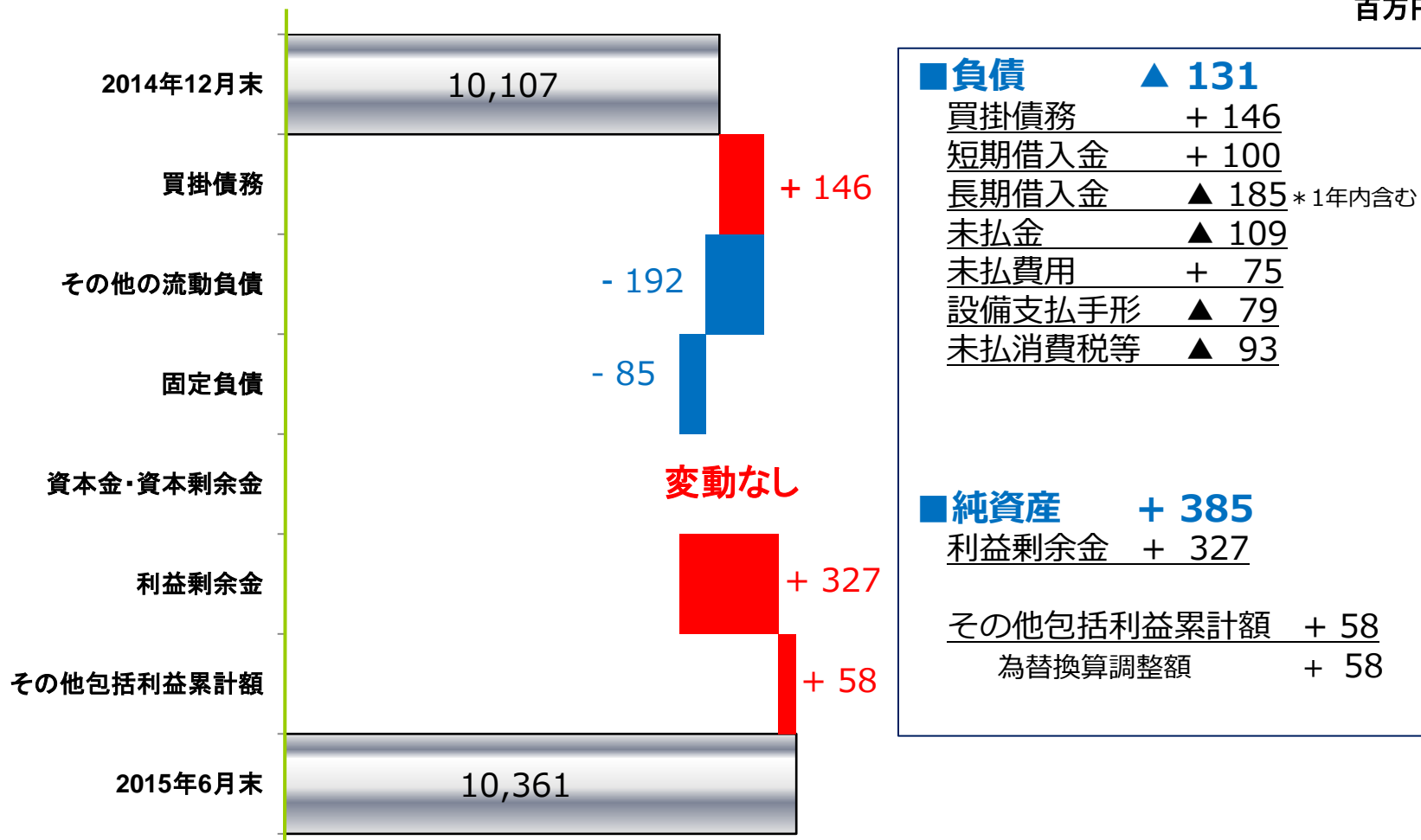
金型 + 25

建設仮勘定 ▲ 328

(富山新工場が4月竣工し科目振替)

2015年第2四半期 連結貸借対照表 負債・純資産の部

百万円



1.2015年第2四半期トピックス

2.2015年第2四半期業績概要

3.事業計画の進捗について

【参考資料】

4.当社事業の概要について

3.事業計画の進捗について

2015年12月期 損益進捗状況

計画予想に対し順調な進捗

単位：百万円	2015年第2四半期		進捗率 (対通期予想)	2015年第2四半期 (当初公表値)	2015年12月期予想 (変更なし)
		%	%		
売上高	5,966	100.0	51.4	5,785	11,605
営業利益	634	10.6	61.0	508	1,040
経常利益	646	10.8	63.6	496	1,017
当期純利益	435	7.3	64.7	329	672

※第2四半期実績為替
レートは右表の通り

2015年第2四半期	
対人民元	19.33 円
対米ドル	120.30 円

3.事業計画の進捗について

2015年第2四半期地域別の予実差異 〔日本〕

	計画値	実績	差額
売上高	4,369	4,368	▲ 0
売上原価	2,985	2,948	▲ 36
売上総利益	1,383	1,420	+ 36
販管費	1,022	1,010	▲ 12
営業利益	361	410	+ 48

【変動要因】

売上高は微減ながら、金型含む減価償却費と仕入高が計画比減となり売上総利益は増。販管費は研究開発費が計画比増となるも全般的な経費削減に努め計画比微減。営業利益は48百万円の増となった。

〔中国〕

	計画値	実績	差額
売上高	1,347	1,510	+ 163
売上原価	1,000	1,061	+ 56
売上総利益	346	452	+ 106
販管費	210	250	+ 39
営業利益	135	202	+ 67

【変動要因】

円安により売上高で60百万円の円換算額増あるが、春節後の受注増により103百万円の売上増。生産増加のため稼働率と利益率改善し売上総利益は増。販管費は人員増と売上増による経費増あるも営業利益は67百万円の増となった。

配当政策（変更なし）

	2014年12月期	2015年12月期 計画
中間配当金	－	12円
期末配当金	19円	12円
年間配当金	19円	24円
当期純利益	581百万円	672百万円
配当性向	18.6%	20.3%

- ・利益還元策は配当性向20%を目標として実施する方針
- ・2015年第2四半期利益は計画を上回ったものの、通期見込みは据置のため、中間配当は当初予定通りに実施

3.事業計画の進捗について

中期計画（2015～2017）

〔中期スローガン〕

開発提案型ボトルパッケージングメーカーとして、世界で最も顧客に必要とされ、チャレンジングで活気ある企業になる

	2015年12月期		2016年12月期		2017年12月期	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	11,605	100	12,690	100	13,720	100
営業利益	1,040	9.0	1,140	9.0	1,260	9.2
経常利益	1,017	8.8	1,120	8.8	1,240	9.0
当期純利益	672	5.8	745	5.8	820	6.0

減価償却費	695	870	1,048
設備投資額	1,538	2,247	1,450
(うち 金型)	501	800	1,000
EBITDA	1,735	2,012	2,310

※想定為替レートは右表の通り

	2014年12月期 実績	中期計画期間
対人民元	17.19 円	18.50 円
対米ドル	105.79 円	117.00 円

地域別の売上高、営業利益目標は以下の通り

〔日本〕

	2015年	2017年
売上高	8,848百万円	9,900百万円
営業利益	750百万円	896百万円

〔中国〕

	2015年	2017年
売上高	2,801百万円	3,500百万円
営業利益	260百万円	384百万円

〔その他〕

	2015年	2017年
売上高	141百万円	540百万円
営業利益	25百万円	▲25百万円

中期計画まとめ

- ・ 開発提案型営業推進

スタンダードボトル
カスタマイズボトル
カスタムボトル

} 提案

- ・ 短納期、高品質の更なる推進を目指した生産体制の強化

- ・ スタンダードボトルの開発推進

〔200型/年 ⇒ 500型/年を実現する体制〕

- ・ 日本、中国、アメリカから東南アジア、ヨーロッパ、インドへ、海外展開推進

3.事業計画の進捗について

地域別の中期計画売上目標

(百万円)
25000

- その他
- 中国
- 日本

- ・ 2014年は203型開発した体制を2017年までに500型/年開発する体制へ
- ・ 金型の標準化・共通化・小型化により、顧客金型製品の受注を拡大させる
(カスタムボトル)

金型数

20000

15000

10000

5000

0

2014/12期
11,062百万円



2015年6月末
2,777金型

6000

5000

4000

3000

2000

1000

0

自社製品
売上比率

72%



62%

(スタンダードボトル)

中期計画進捗まとめ〔海外展開〕

- ・ **中国** 成長率は鈍化しているが、市場規模は大きい
金型製作力の強化と付加価値ある製品開発で
差別化図るとともに、生産力増強も検討中
- ・ **インド** 子会社設立は時期を見直したが、
顧客・市場ニーズ・拠点検討の市場調査継続中
- ・ **ヨーロッパ** 市場調査開始のため駐在員の派遣を計画中
- ・ **東南アジア** タイ駐在員事務所を拠点に法人化検討中
- ・ **アメリカ** 事業パートナー候補を選定中

1.2015年第2四半期トピックス

2.2015年第2四半期業績概要

3.事業計画の進捗について

【参考資料】

4.当社事業の概要について

日本と世界の器文化に貢献する

理 念

生活上必要不可欠な容器

– カタチ(容)あるウツワ(器) – を通じて、
顧客の商品である内容物の価値を安全に包み、
更にその価値と個性化を高めることである。

社 是

使う人の心でボトルをつくる

4. 当社事業の概要について

当社は**化粧品**、**食品**、**医薬品**向けなどに**スタンダードボトル**（自社で容器の企画、設計を行い、金型を自社所有している容器）を**製造販売**している会社です。2015年6月時点では**2,777型の金型**を所有。

化粧品向け容器



食品向け容器



日用・雑貨向け容器



医薬品向け容器



押し出しチューブ



ガラス容器



キャップ



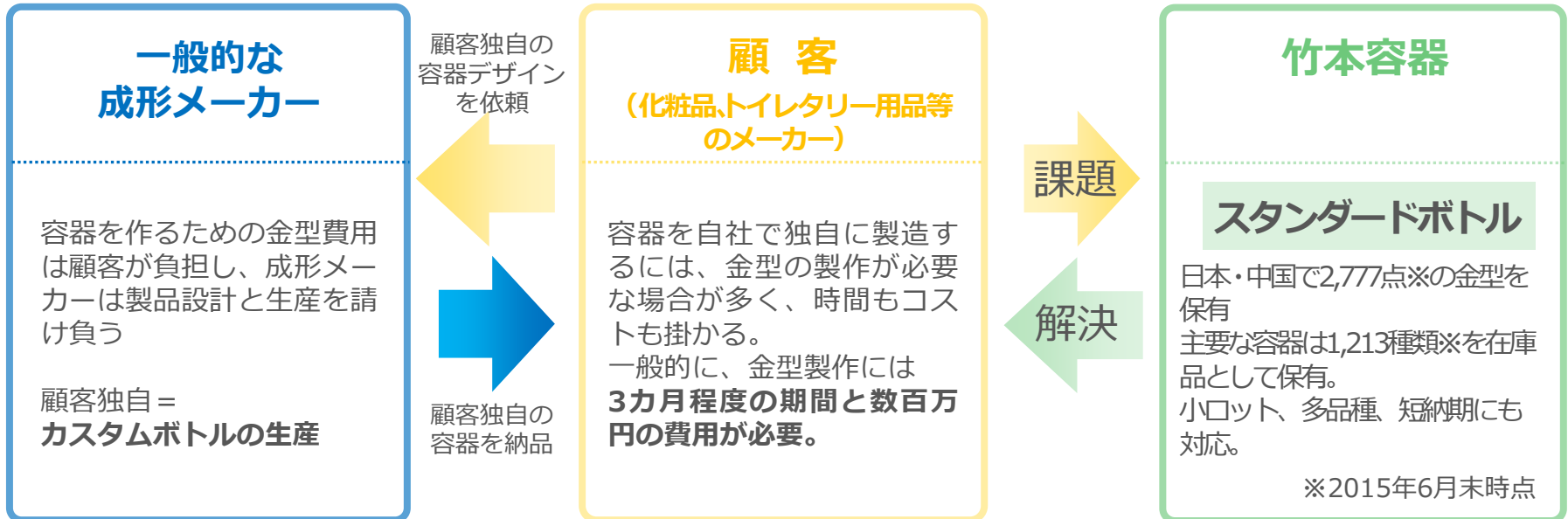
ディスペンサー



当社グループ販売地域は日本、中国、アメリカなど世界に広がっており、2014年12月期の販売先数は**グループ全体で4,603社**となっています。

4. 当社事業の概要について

スタンダードボトルを利用する背景



顧客のメリット

顧客は自社オリジナルの包装容器を、自前で金型製作するよりも**短期間かつ開発コストを抑えて調達できる。**

「お客様」が必要とする容器を必要な数だけ提供するのがスタンダードボトルの使命

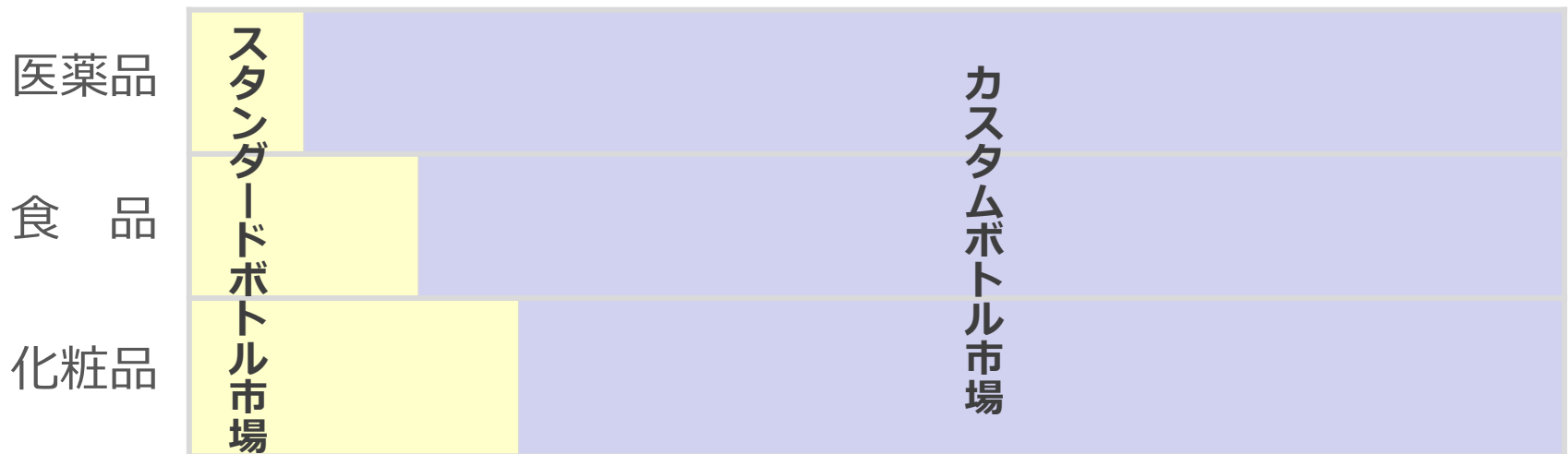
メーカーで、スタンダードボトルを2,777型所有する会社はない模様

= **竹本容器の特長!!**

カスタムボトル市場の方が大きいから、スタンダードボトル開発を企業ドメインにしている会社はないと思われる。

= **竹本容器はニッチプレーヤー**

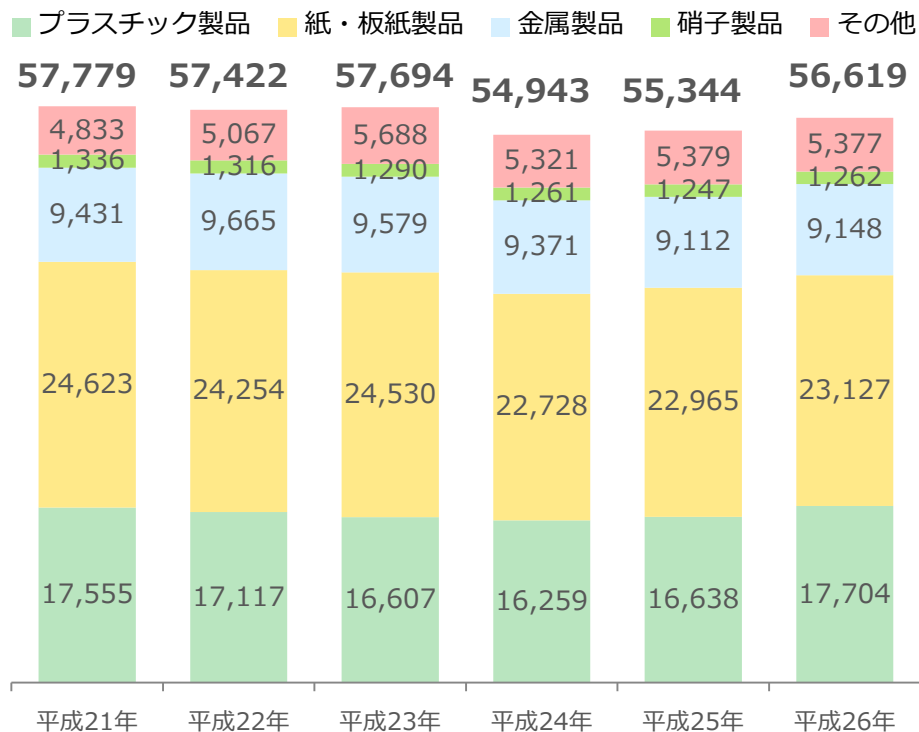
イメージ図



事業環境（国内）

容器の出荷金額は横ばい、プラスチック製品の出荷金額は1兆7,000億円台

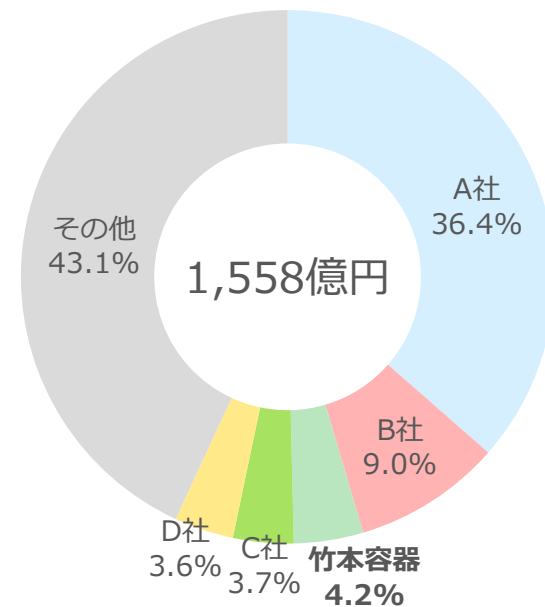
包装・容器出荷金額の推移（億円）



（出所）公益社団法人日本包装技術協会 平成27年調査

化粧品・トイレタリー市場での竹本容器シェアは4.2%。スタンダードボトル市場は下のグラフのうち20~30%と推定

化粧品・トイレタリー容器の市場シェア（2008年度、金額ベース）



（出所）プラスチックパッケージ成形加工メーカー年鑑 2010年版

スタンダードボトル開発会社が少ないもう一つの理由

スタンダードボトルを開発していくのは、カスタムボトルを作るより容器メーカーにとって負担が大きい

機械投資と金型投資両方の負担

多くの販売先を見つけなければならない負担

何を作るべきか企画検討する負担

スタンダードボトルを開発してもすべて平準化して売れない
心理的負担

スタンダードボトルビジネスを支える3つの要素

顧客

(営業・開発)

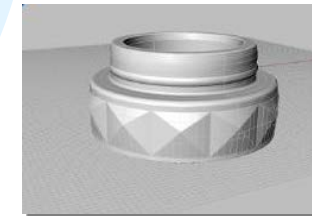
- 幅広い顧客基盤 (4,603社)
- 国内外で販売
- 提案開発力
- マーケティング力



金型

(開発・技術)

- 豊富なストック (2,777型)
- 金型の標準化、共通化、小型化
- 品揃えの拡充
- デザイン・機能性に留意した容器開発



製品供給体制

(技術・生産)

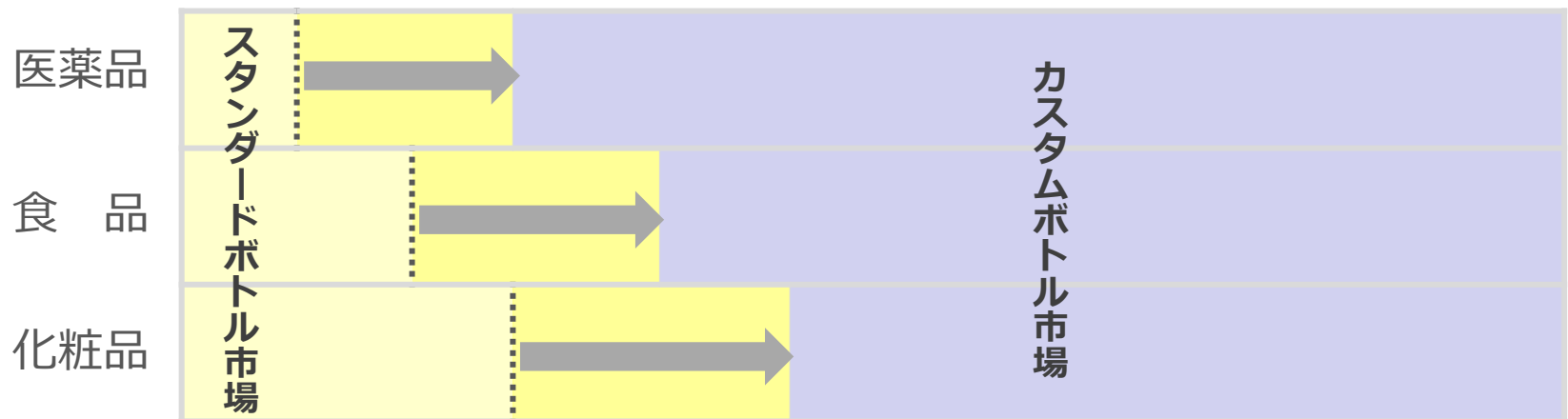
- 高品質、小ロット、多品種、短納期
- 国内外で生産
- カスタマイズ
- 技術開発



化粧品やトイレタリー用品などでは商品ライフサイクル短縮化を背景に、多品種少量生産が進展、短納期・小ロット対応の需要は拡大



スタンダードボトル市場自体の拡大と
スタンダードボトルの開発基盤、金型基盤、お客様基盤により
カスタム・ボトル市場へ開発提案、活動領域を拡大



日本と世界において、

1. スタンダードボトルの開発
2. カスタマイズボトルファクトリーの構築
3. カスタムボトル・イノベーションの推進



開発提案型ボトルパッケージングメーカー

カスタマイズ・ボトルファクトリー

スタンダードボトルに 二次加工を加える事により、**カスタマイズ**する事が出来ます。



ホット

加熱によりゴールドやシルバーのメタリック箔を成形品に転写させる方法です。



蒸着

商品の付加価値である高級感、重厚感を高めます。



塗装

高級感の演出や機能性の付与(ハードコート・UVカット等)が可能です。



スタンダードボトル



着色



シュリンク

容器へ直に印刷する事と比べ、パッケージデザインを容器全体へ大きく見せる事が可能です。



シルク印刷

プラスチック製品の印刷方法として多く使われ、少数からの印刷が出来ます

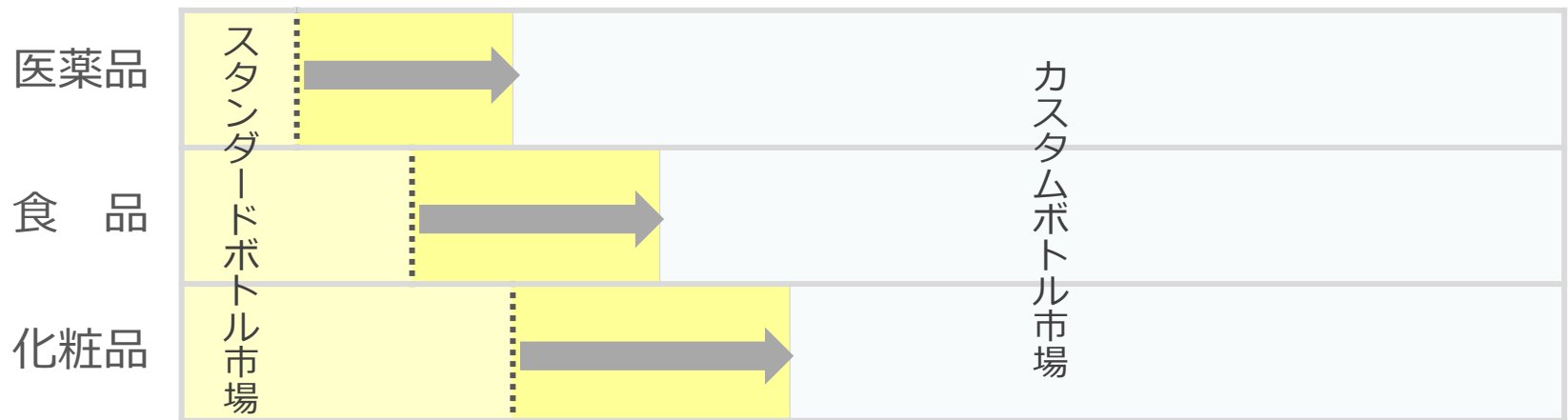


ラベル

印刷などと組み合わせることにより、新しいボトル表現が広がります。

カスタムボトル・イノベーションとは

スタンダードボトルの**開発基盤**・**金型基盤**を活用して、
お客様に開発提案を行い、また、お客様の**オリジナル金型**
を**低価格**、**短納期**でご提供すること。



カスタムボトル・イノベーションとは

また、**金型構造の標準化・部品共通化・金型の小型化**を
することで、
お客様のオリジナル金型を低価格、短納期、高品質で
ご提供すること。

カスタムボトル・イノベーション オリジナルブロー型 事例



既製品：PEMI-500Ⅱ
PEPI-500Ⅱ
共通プリフォーム仕様

プリフォーム共通にて
オリジナルのボトル形
状にてブロー型作成。



肩部、底部にダイヤカット

カスタムボトル・イノベーション ポイント カスタマイズ 事例

お客様の機能的なニーズに対しても、カスタマイズ可能です。



従来品の液切れを改良して商品化した例



お客様のフル オリジナルボトル&キャップ

お客様のご要望に応じた、品質、デザイン、機能性を
かねそろえたフルオーダーのボトル製作も対応可能です。

フルオーダー事例



4. 当社事業の概要について（会社概要）

会 社 名	竹本容器株式会社
事 業 内 容	プラスチック製容器等の製造・販売
設 立 年 月 日	1953年(昭和28年)5月19日
代 表 者 名	代表取締役社長 竹本 笑子
本 社 所 在 地	東京都台東区松が谷二丁目21-5
資 本 金	3億3,205万円
発 行 済 株 式 数	5,682,200株 (1単元の株式数 100株)
株 主 数	1,799名
グループ従業員数	892名

※ 数字はいずれも2015年6月末時点

「挑戦」なくして進化なし

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。